

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

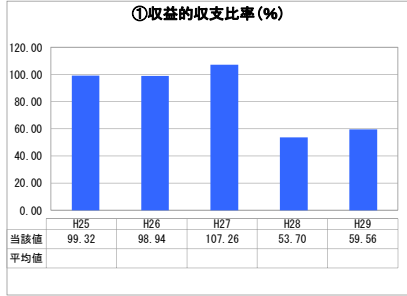
福島県 古殿町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	12.77	100.00	3,412

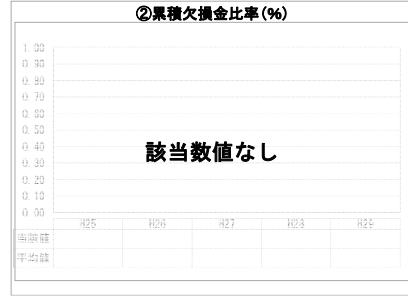
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,419	163.29	33.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
686	0.32	2,143.75

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



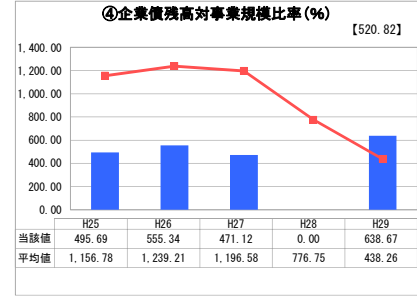
「単年度の収支」



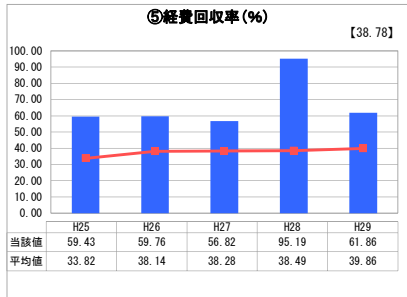
「累積欠損」



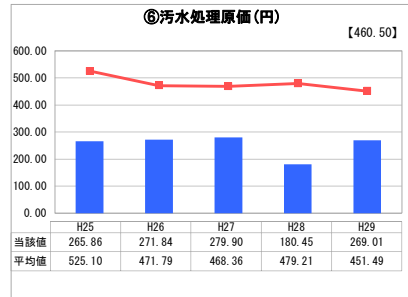
「支払能力」



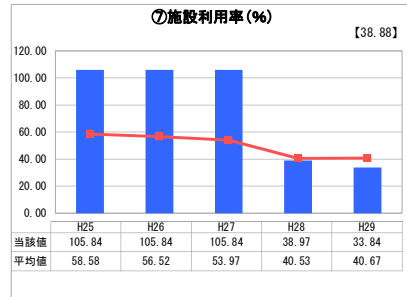
「債務残高」



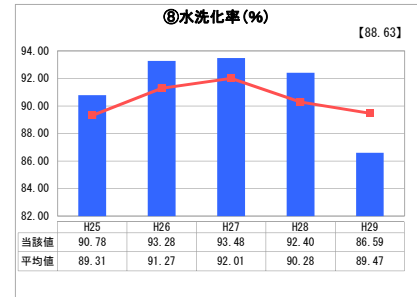
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

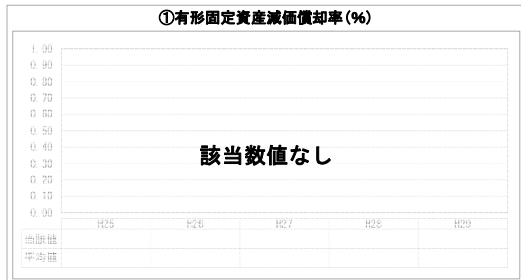


「施設の効率性」

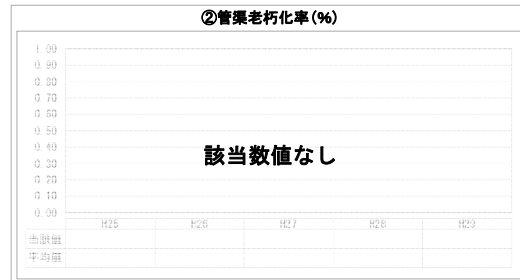


「使用料対象の捕捉」

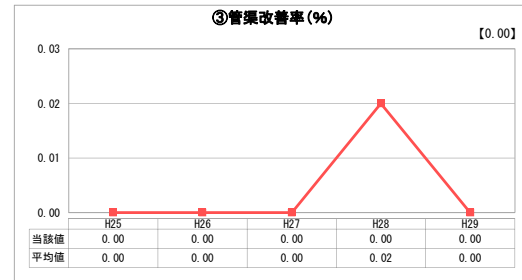
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経費回収率、施設利用率、水洗化率が上昇傾向にあり、収益的収支比率の改善がみられた。しかしながら、今後過疎化や少子高齢化により、収益の減少が見込まれる。実情に応じた適切な使用料金設定の必要性がある。

また、企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値を大きく下回っている。経費削減による出費抑制、及び使用料等回収率向上に努め、収益の増加を図り、一般会計負担とのバランスを図る。

### 2. 老朽化の状況について

近年は管渠の更新及び修繕を行っていないが、施設毎に供用開始時期が異なるので、同年度に集中しないよう、古い順に計画的に更新、修繕を行う必要がある。

### 全体総括

今後は過疎化、少子高齢化に伴う人口減少により、施設効率性の悪化が予測される。

また、古い施設は供用開始より20年以上経過しているため、今後は設備機器更新や修繕の増加が予測され、汚水処理コストの悪化が懸念される。実情に応じた使用料金改定や、費用相対効果を検討しながら設備投資などの対応が必要になる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。